

人生ハンド仏句

第146号

H. 26. 5. 1

(毎月1日発行)

「いのちは」

なくならない

住職 谷川寛俊

「生きていくのが花、死ぬことや年を取るとは隠しておきましようというの、とてもおかしいと思います。」と語るのは、東京にいらつしやる私の友人の奥様、花子さんです。彼女は今、老いの悩み、病の苦しみを抱えている人々と共に生き、その日その日を大切にしている、東京仏教ホスピス会の会員です。花子さんはこの会の会員となったのは、彼女自身「いのち」という問題に直面した幼い日の思い出があったからだそうです。

花子さんはお寺の娘として、この世に産声をあげました。お父さんとお母さんの愛に育まれた彼女

の人生は、まさにバラ色そのものでした。

ところが小学校三年生の夏休みに受けた健康診断で、肺に影があることが分かったのです。それからの彼女には、命を見つめる日々が始まったのです。最初はお見舞いに来てくれたクラスメイトたちも、月日が経つ毎にだんだんと遠ざかってしまいました。子供にとっての一年は、大人にとっての十年にも等しいものです。どんどん大きくなる友達とは反対に、彼女は死を考えることが多くなりました。

ある日の事、暗い底なしの井戸に引きづり落とされて行く夢を見た時、花子さんはお父さんに「怖い、どうしたらいいの？」と泣きながら言っていました。

その時、お寺の住職でもあるお父さんが、こんな話をしてくれたというのです。

「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行

玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

「花子、いのちは」はね、死んでも決して無くならないんだヨ。例えばね、ここに三つ風船があるとしようか。青い風船はお父さん。黄色の風船はお母さん。赤い風船は花子、お前だよ。その風船は今、空に浮かんでいるけど、いつかはしぼんでしまおうし、いつぱアーンと弾けてしまいかも知れないよね。でもね、中に入っている空気はなくなるわけじゃないんだ。元の大きな世界に帰るだけなんだよ。だから死ぬ事を恐れなくてもいいんだよ。風船が無くなっても、中の空気は、いつも皆と一緒にあるんだから」と、このお父さんの話を聞いて、花子さんは「良かった」と安心したそうです。

そしてその安心感から、彼女の病気は不思議に良くなり、二人の子供の母親にもなることが出来たのです。だからこれからは、この体験を元に、生きていくことの有難さを人々に伝

えたいと彼女は、お坊さんの資格を得ることになりました。

この話を聞いて、私達が毎日お唱えしているお題目と法華経の如来寿命品第十六に出てまいります「久遠実成の仏様」つまり、人間はやがて身体は滅しますが、魂は生き続けているという教えです。亡くなつてからあの世で仏になると言うのではなく、私達はもともと生まれながらに「仏」だったんだ。という教えが、法華経の極意であります。

確かに、空気や魂は肉眼で見ることが出来ませんが、私はこの時ほど魂の存在が証明されたという思いが、強くなったことは有りませんでした。

以来花子さんは、お寺の奥さんとして、又尼僧として毎日精進されていきます。



◎祠堂大法要

お知らせ

大法要

(今年永代供養加入者各霊位御回向)

◎法要 (各家先祖のご回向)

午前十一時

◎法話

午後十二時半

黒部市経妙寺住職・

真成寺副住職

谷川寛敬上人

久し振りに副住職の御法話です。どういのお話が聞けるのでしょうか。
どうぞ楽しみにお出かけ下さいませ。



・午後一時半

尚、十二時より昼食の準備がして御座いますので、ご遠慮なくお召し上がり下さいませ。
給仕(お講)当番は経田・本新地区の方々です。
どうぞ宜敷くお願いいたします。

◎毎月一日祈禱会

・午前五時から

○朝勤(ちようこん)

毎朝5時励行にお参りです。

(5月〜9月は毎朝5時)

どなたでもお気軽にお参りください。

◎水子供養会

・毎月十三日

・午後一時半より

◎唱題行脚

・毎月二十八日

・午後一時半より

先月の参加者

谷川寛敬・伊藤宗治・土居可久子

高円富美子・大西敏明・谷川まり子

谷川知世



本堂屋根改修工事もお蔭様で順調に進んでおります。

ご寄進賜りました皆様には、厚く御礼申し上げます。

又、ご芳名と口数を順次掲載して頂きたいという声もありましたが、協議の結果、左記の様にお知らせする事に致しました。

尚、毎朝のお勤め時に工事の無事完成とご寄進頂いた方々の家内安全、身体健全を御祈願致しております。

- ・三十万円……………一人
- ・二十万円……………二人
- ・十万円……………十一人
- ・五万円……………十六人
- ・三万円……………十二人
- ・二万円……………十二人
- ・一万五千元……………二人
- ・一万元……………三十二人
- ・五千元……………四人

四月三十日 現在
(尚一層の御協力をお願い申し上げます)